

ロータリー財団 未来の夢計画

—— その必然と実践 ——

ロータリー財団地域コーディネーター (RRFC) 第3ゾーン 橋本 譲

ロータリー財団創設と沿革

1917年6月、アメリカ・ジョージア州アトランタで開かれた国際大会の席上、6人目の国際ロータリー (RI) 会長アーチ C. クランフは参加者を前に「It seems eminently proper that we should accept endowments for the purpose of doing good in the world. ——世界で善を成すための寄付金を受け取ることは極めて適切なことだと思われる」と、ロータリー基金の創設を呼びかけました。

このとき語られた「Doing good in the world ——世界でよいことをしよう」という言葉は、今、ロータリー財団の標語となっています。

翌年、カンザスシティロータリークラブが26.5ドルを基金に寄付。これがロータリー基金にとって最初の寄付金となりました。

1928年、ロータリー基金は法人としてのロータリー財団に衣替えしましたが、そのときの資産は5,739ドルと記録されています。

1947年、ロータリーの創始者であるポール P. ハリスが逝去。その死を悼んで、世界中から寄付が寄せられ、100万ドルを超えました。

そこでロータリー財団は、翌年、これを資金に18人の大学院生に奨学金を贈りましたが、この奨学金プログラムが組織立ったロータリー財団の最初のプログラムで

あり、国際親善奨学金制度の始まりです。

このプログラムでは、既に4万2,000人の人たちがその恩恵を受けています。

以後も、ロータリー財団は次々と新しいプログラムを生み出しました。

1965年 G S E (研究

グループ交換)、マッチング・グラント

1978年 保健、飢餓追放および人間性尊重 (3-H) プログラム

1985年 ポリオ・プラスプログラム

2000年 C A P (地域社会援助プログラム) →地区補助金

2002年 平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センター

このように、ロータリー財団は多くのプログラムを生み、多くの賛同と参加を得てきました。そして、94年が経過した今、ロータリー財団は大きく変わろうとしています。

今、なぜ「未来の夢計画」なのか

長い間、国際親善奨学生に代表される教育的プログラムがその主流でしたが、次第に人道的支援がロータリー財団の奉仕の主流になってきました。

1965年から2000年までの35年間で1万件であったマッチング・グラントは、2000年から2004年の4年間で1万件を超えました。この人道的分野でのマッチング・グラントの爆発的成長は、ロータリー財団が取り組むべき問題点を浮き彫りにし、その長い歴史の中で最も革新的な変革「未来の夢計画」誕生の、一つの要因となりました。

小額プロジェクトの増加は、補助金を上回る経費とともに膨大な事務量を生じ、あふれる書類に、人的対応が追いつかなくなったのです。

さらに時間をおいて検討してみると、小さなプロジェクトでは、せっかくの奉仕も持続的効果が望めないなど、多くの問題点が指摘されたのです。ロータリー財団の成功が、かえって仇^{あだ}となった、といえるでしょう。

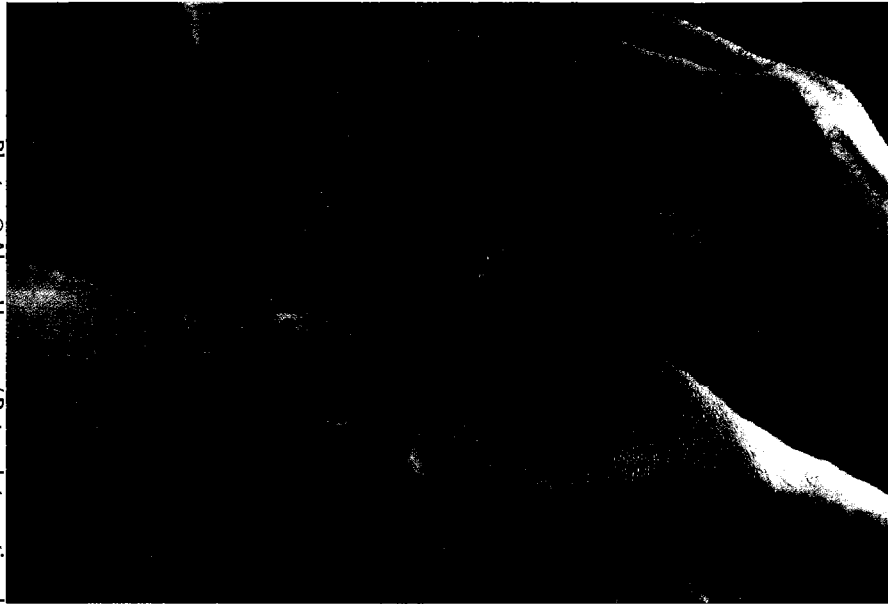
そこでロータリー財団は2005年、「Future Vision Plan——未来の夢計画」委員会を発足させ、ロータリー財団100周年(2017年)を迎えたとき、財団がいかにあるべきか、の検討を始めました。

そのコンセプトは、

- ・プログラムと運営の簡素化
- ・ロータリー財団が自分たちの財団であることを自覚し、身近な存在とすること



アーチ・クランフ



「マッチング・グラント」などの現行のプログラムはすべて何らかの形で、新補助金制度のもとに継承されます。

2013年7月からの全面実施に向けて、今、地区はいかなる準備をしなければならないかについて、ローリー財団の資料を引用しながら述べます。

資金配分

従来どおりシェア・システムにより、地区の3年前の年次プログラム基金（APF-Share）と恒久基金収益の50%がDDF（地区財団活動資金）に、50%がWF（国際財団活動資金）となります。

・世界的目標と地元の目標の両方を果たすための資金を提供すること

など、「素晴らしい財団」とするための骨格を決めました。

プログラムの簡素化には、6つの重点分野を設定。そしてプログラムを

1. 平和と紛争予防／紛争解決
2. 疾病予防と治療
3. 水と衛生設備
4. 母子の健康
5. 基本的教育と識字率向上
6. 経済と地域社会の発展

に集約したのです。

そのために2000年に改訂したロータリー財団の使命が再び見直され、「ロータリアンが、（世界の貧しい人たちの）健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」としました。

「未来の夢計画」への移行準備

ロータリー財団は2009年6月、世界531地区から100地区を「パイロット地区」に指定。2010年7月から3年間の試験運用に入りました。

試験運用で問題点があれば、修正して3年後の全面実施に移る、というものでした。

日本では第2770、2830、2580、2760、2650、2690地区の6地区が選ばれて、「未来の夢計画」に沿ったプログラムで、実際の運用が始まりました。

変革の一例をプログラムで見ると、従来そのまま継続されるのは「ロータリー平和フェロシップ」「ポリオ・プラス」です。「GSE」「国際親善奨学金」「地区補助金」

クラブと地区は、新地区補助金とグローバル補助金の2種類の補助金制度を通じて、地元や海外での奉仕活動の支援のような人道的プロジェクト、また奨学金や職業研修チームなどの教育的プロジェクトを実施することができます。これらの申請は全てオンラインで行われます。

新地区補助金

地区は年に一度DDFの50%までを新地区補助金として申請し、地区とクラブの複数のプロジェクトに使用することができます。申請書を提出する計画年度と、補助金が支給され実施する2年サイクルが推奨されており、地元や海外、ロータリークラブのない国での事業も可能です。新地区補助金はロータリアンが柔軟性を持って活用できる補助金です。

グローバル補助金

6つの重点分野に関連した比較的大規模で長期的なプロジェクトを支援するものです。これらの活動はいずれも持続可能で、成果が測定できるものでなければなりません。財団は1万5,000ドル～20万ドルを国際財団活動資金からDDFに対して100%、現金に対して50%支給しますので、プロジェクトの最低額は3万ドルとなります。クラブあるいは地区はまず活動計画と目的を簡潔に説明した提案書を提出し、この提案書がグローバル補助金の条件を満たしていると判断されればより詳細で本格的な申請書を提出するという2段階のステップが必要となります。

補助金プログラムへの参加資格

従来ロータリー財団が持っていた資金管理を、一部とはいえ地区が委託を受けることが「未来の夢計画」の大きな特徴といえます。

そのためには地区はロータリー財団の指針に従って、

補助金専用の銀行口座を設け、財務管理計画を決めて、覚書(MOU)に同意し、参加資格を得ることが必要です。

グローバル補助金を申請するクラブもまた同じように覚書に同意し、地区が開催する「補助金管理セミナー」を受講し、地区から参加資格を得なくてはなりません。

委員会構成

未来の夢計画の下では、基本的な委員会構成は、地区財団委員長および次の3つの小委員会です。

- ・ ポリオ・プラス小委員会
- ・ 補助金小委員会
- ・ 資金推進委員会

地区は、奨学金やロータリー平和フェロシップなど必要に応じて他の小委員会を設けることができます。

2012 - 13年度、地区は、財団の新しい補助金モデルの導入に備えて、移行準備を始める必要があります。準備を行う際は、以下の点をご確認ください。

- ・ グローバル補助金の利点を強調する。グローバル補助金では、成果を具体的に測ることができ、持続可能で大規模なプロジェクトを行うことによって、ロータリアンが世界に大きな影響をもたらすことができる。
- ・ 2012年7月以降に補助金管理セミナーを実施し、クラブがグローバル補助金を申請するための参加資格を得られるようにする。
- ・ 2013年1月から2013年9月までの間に、オンラインで地区の参加資格認定手続きを行い、新しい補助金を申請できるようにする。
- ・ 地区およびクラブは、どのような種類の補助金であっても、未完了の補助金プロジェクトを一度に10件以上施することができない。補助金活動が終了し次第、速やかに報告を行い、完了させる。
- ・ 代表提唱者は、新地区補助金とグローバル補助金の承認を受ける前に、人道的補助金プログラムの補助金の報告を期限どおりに行っていないと認められない。
- ・ 地区は未完了の地区補助金が一口あっても、その補助金の報告書が提出済みである(ただし必要なすべての情報を正確に報告していること)場合は、新地区補助金の支払いを受けることができる。地区が提唱したマッチング・グラントについても滞りなく報告を行っていないと認められない。
- ・ 新地区補助金とグローバル補助金の年間スケジュールは、財団の従来のプログラムと異なるため、あらかじめ計画をしておく必要がある。例えば、地区は2013 - 14年度の奨学生を2012年1月に選出する必要はない。
- ・ 国際親善奨学金、研究グループ交換、人道的補助

金プログラムにおける地区のこれまでの功績を祝い、プログラムの参加者を称えとともに、これからも引き続きロータリー財団で貢献をしてもらうよう奨励する。

- ・ クラブへのDDF使用報告として地区が現在採用している方法を見直すとともに、財団補助金のために配分するDDFの報告を今後どのように行っていくかを検討する。

留意点：未来の夢計画は現在も試験段階にあるため、2013年7月1日以前に指針に変更が加えられる可能性があります。

こうした手続きを考えると、クラブとして2013 - 14年度役員の指名、選出を少なくとも6か月以上早める必要がある、と思われます。

理事会構成、各種委員会選出、財団との「覚書」への同意、署名、補助金管理セミナーへの出席など、多くの責務を確実に果たさなければなりません。

また、申請書提出などの手続きは、すべてオンラインとなっており、この誌面に載らなかった情報も、すべて国際ロータリーのウェブサイト www.rotary.org などで得ることができます。

新地区補助金の規模は、金額的には従来のおよそ2.5倍になり、地元のニーズに応えるロータリーらしい、あるいはロータリーの名にふさわしいプロジェクトが可能となるでしょう。

グローバル補助金は、6つの重点分野につながる人道的かつ持続性を持った素晴らしい大型プロジェクトが期待されます。

地区、クラブそしてロータリアンの皆さまの「未来の夢計画」に沿った新たな参加と挑戦、そしてその成果の豊かな実りが待たれます。



Photo © Monika Lozinska-Lee / Rotary International